

在宅介護実態調査 報告書

目次

I 調査概要	1
1 調査目的	1
2 調査対象	1
3 調査期間	1
4 調査方法	1
II アンケート調査結果	2
1 調査回答者	2
2 調査対象者について	3
(1) 居住地区	3
(2) 世帯類型	3
(3) 家族等による介護の頻度	3
3 介護者の状況について	4
(1) 主な介護者の本人との関係	4
(2) 主な介護者の性別	4
(3) 主な介護者の年齢	4
(4) 主な介護者が行っている介護	5
(5) 介護のための離職の有無	6
4 サービスの利用状況について	7
(1) 保険外の支援・サービスの利用状況	7
(2) 在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス	8
(3) 施設等検討の状況	9
(4) 本人が抱えている傷病	10
(5) 訪問診療の利用の有無	11
(6) 介護保険サービスの利用の有無	11
(7) 介護保険サービス未利用の理由	12
5 主な介護者の勤務状況について	13
(1) 主な介護者の勤務形態	13
(2) 主な介護者の方の働き方の調整の状況	13
(3) 就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援	14
(4) 主な介護者の就労継続の可否に係る意識	15
6 主な介護者が感じる介護の不安	16
(1) 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護	16
III 要介護認定状況	17
(1) 年齢	17
(2) 二次判定結果（要介護度）	17

(3) サービス利用の組み合わせ	18
(4) 訪問系サービスの合計利用回数	18
(5) 通所系サービスの合計利用回数	19
(6) 短期系サービスの合計利用回数	19
(7) 障害高齢者の日常生活自立度	20
(8) 認知症高齢者の日常生活自立度	20

I 調査概要

1 調査目的

本市では、健康で生きがいのある長寿社会の実現を目指して、高齢者福祉計画・介護保険事業計画、認知症施策推進計画を策定し、高齢者福祉や介護保険事業を推進しています。

令和9年度から始まる新たな計画を策定するにあたり、市民の生活実態や自立した生活を送るうえでの課題等を把握し、地域に適した施策を推進するため、アンケート調査を実施しました。

2 調査対象

在宅介護サービス利用者 450 名

3 調査期間

令和7年11月～令和8年2月

4 調査方法

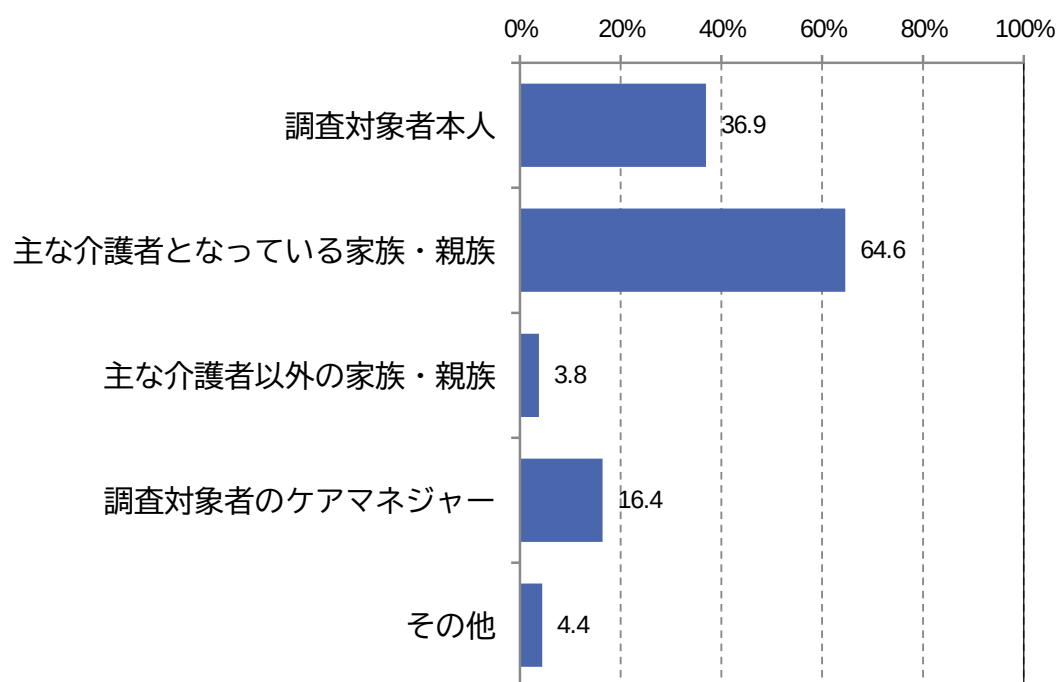
面接聞き取り調査

Ⅱ アンケート調査結果

1 調査回答者

聞き取り相手は「主な介護者である家族・親族」が 64.6%と最も高い

調査の聞き取り相手（調査回答者）は、「主な介護者となっている家族・親族」が 64.6%と最も高い、調査対象本人は 36.9%です。

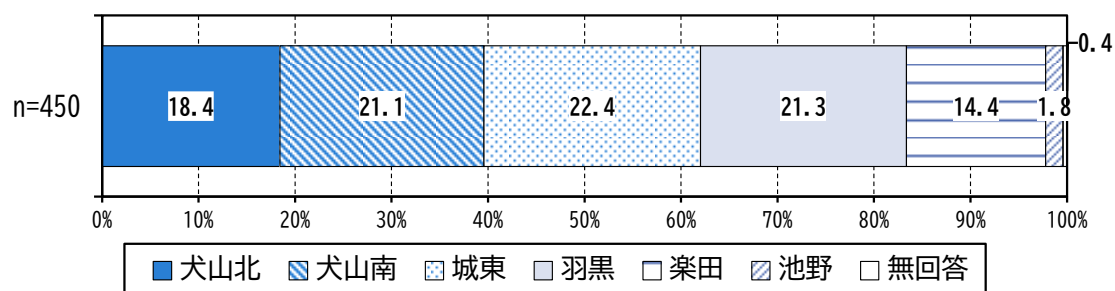


2 調査対象者について

(1) 居住地区

居住地区は、「犬山北」「犬山南」「城東」「羽黒」がそれぞれ20%前後

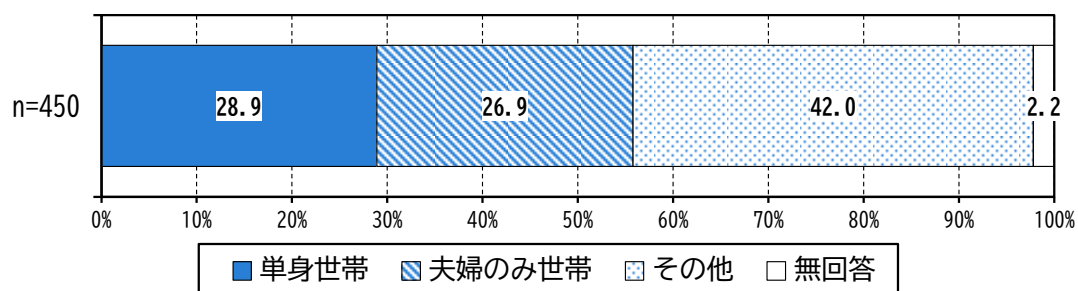
調査対象者の居住地区は、犬山北、犬山南、城東、羽黒がそれぞれ20%前後を占め、楽田が14.4%、池野が1.8%となっています。



(2) 世帯類型

世帯類型は「その他」が42.0%と最も高い

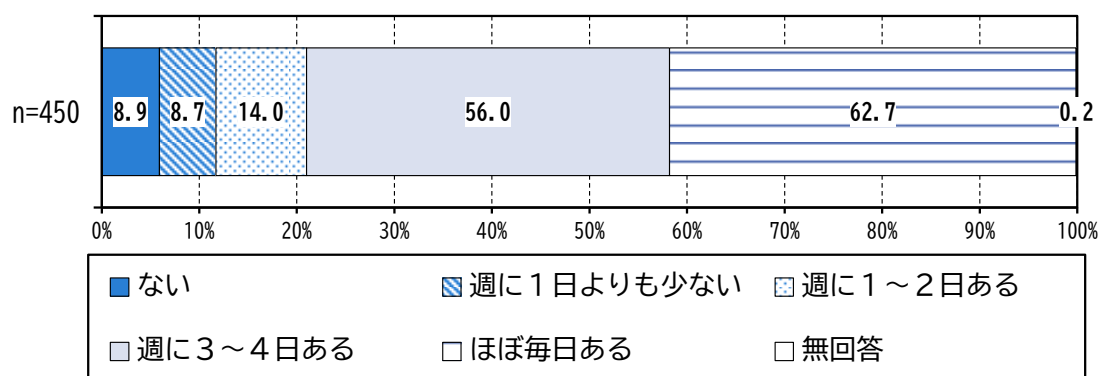
世帯の類型は、「その他」の割合が最も高く42.0%となっています。次いで、「単身世帯」が28.9%、「夫婦のみ世帯」が26.9%となっています。



(3) 家族等による介護の頻度

ご家族やご親族の方からの介護は「ほぼ毎日」が62.7%、「ない」は8.9%

「ほぼ毎日」の割合が最も高く62.7%、次いで、「週1～2日」が14.0%となっています。一方で「ない」は8.9%となっています。

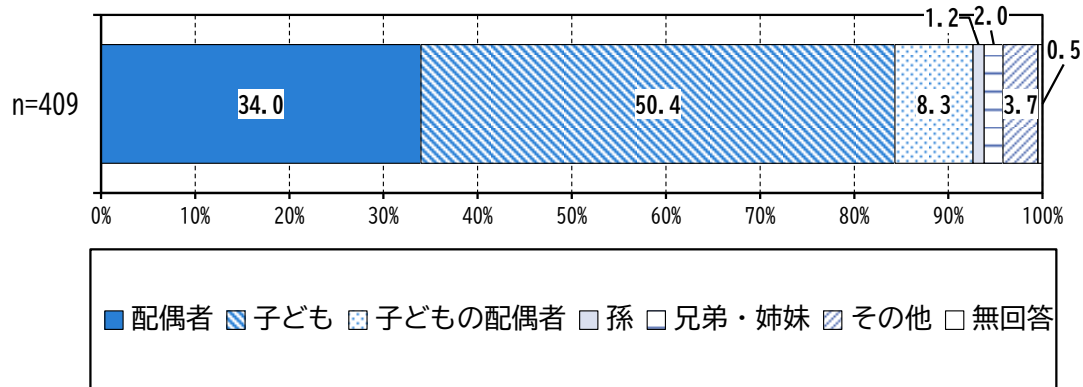


3 介護者の状況について

(1) 主な介護者の本人との関係

主な介護者は半数が本人の「子ども」

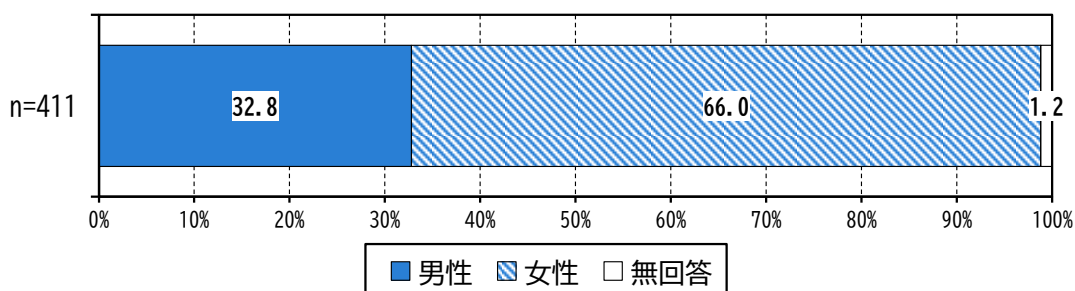
「子ども」の割合が最も高く 50.4%と半数を占め、次いで、「配偶者」が 34.0%となっています。



(2) 主な介護者の性別

主な介護者の性別は「女性」が 66.0%

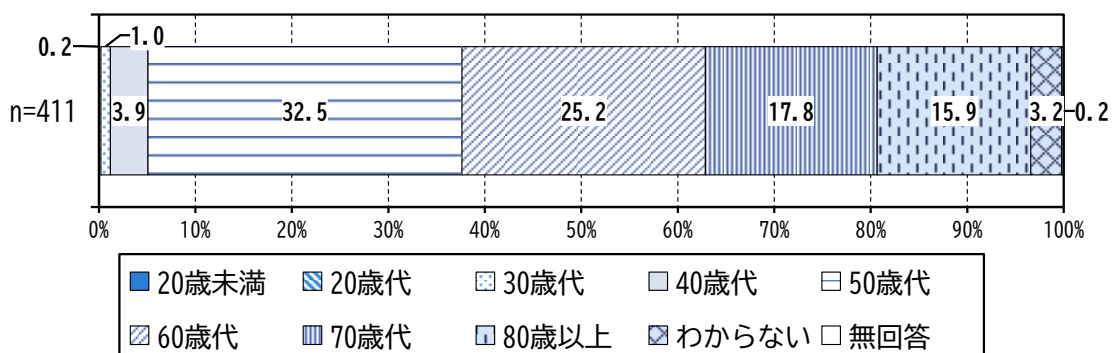
「女性」の割合が 66.0%と高く、「男性」は 32.8%です。



(3) 主な介護者の年齢

主な介護者の年齢は「50 歳代」が最も高い

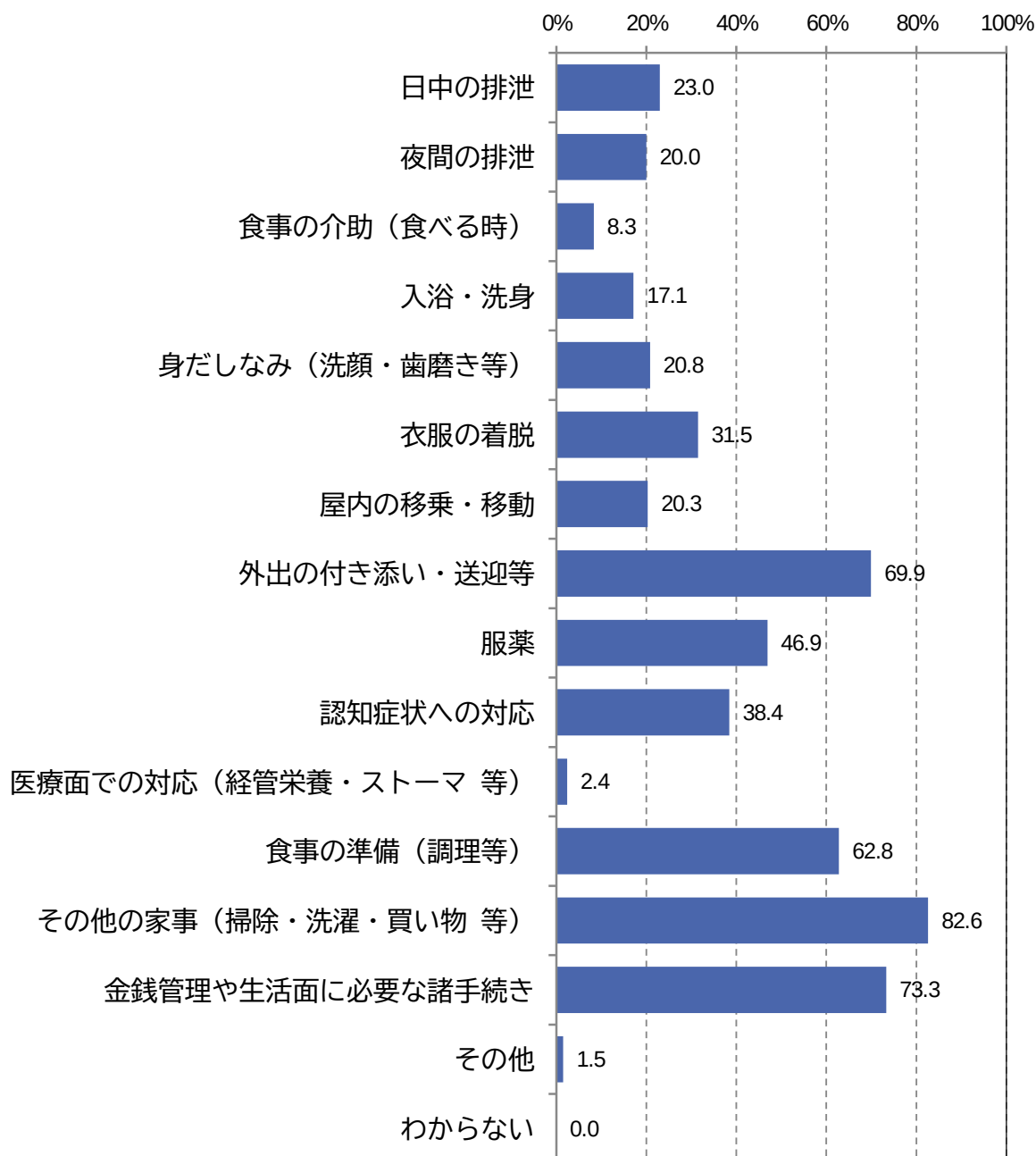
「50 歳代」の割合が 32.5%と最も高く、次いで、「60 歳代」が 25.2%、「70 歳代」17.8%となっています。



(4) 主な介護者が行っている介護

行っている介護は「家事」、「外出の付き添い」、「手続き」の割合が高い

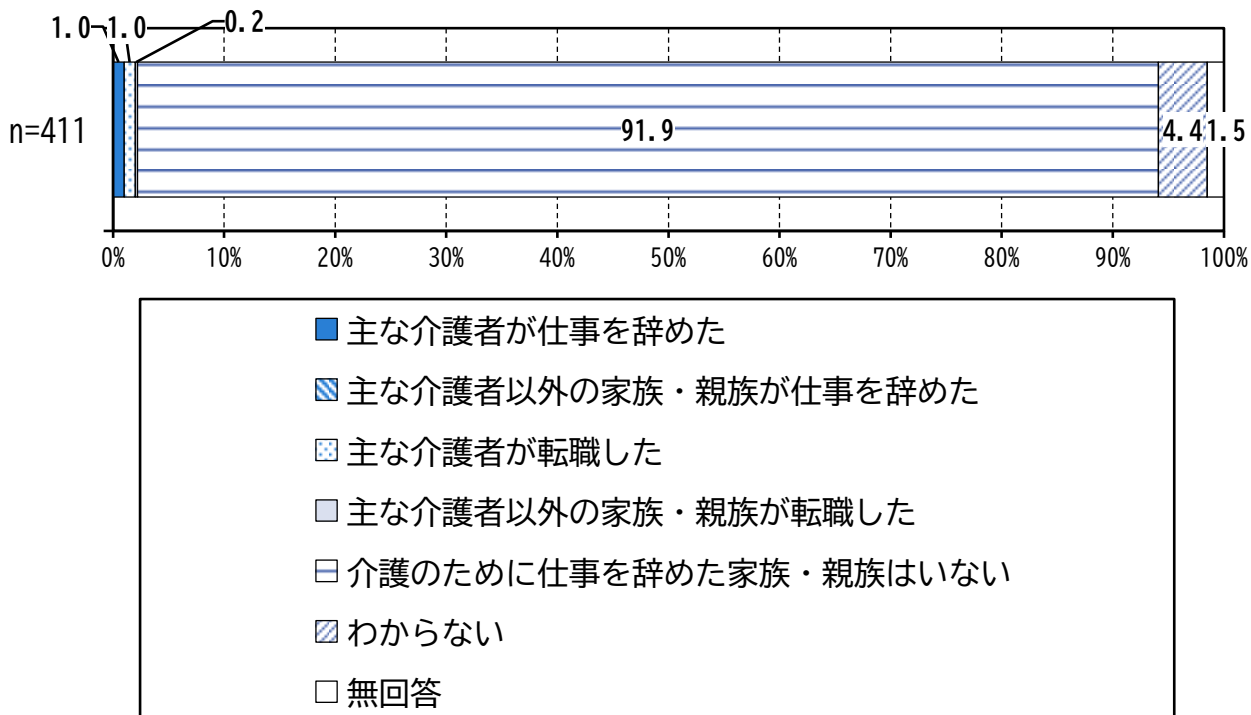
「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」の割合が 82.6%と最も高く、次いで、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が 73.3%、「外出の付き添い、送迎等」が 69.9%、「食事の準備（調理等）」が 62.8%と続いています。



(5) 介護のための離職の有無

「介護離職をした人」は1.0%

「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」という介護離職をした人の割合は1.0%で、「主な介護者が転職した」が1.0%、「主な介護者以外の家族・親族が転職した」が0.2%となっています。全体の91.9%は「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」となっています。

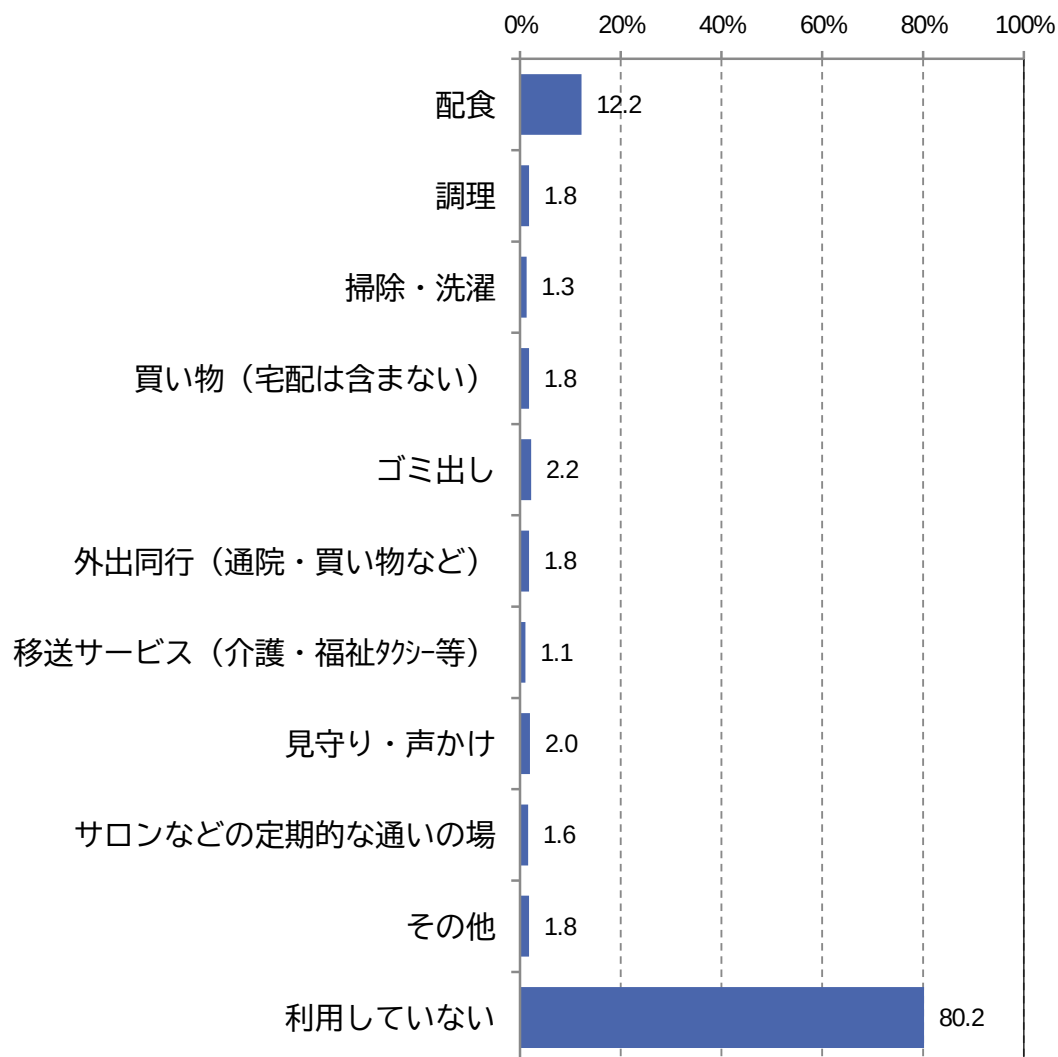


4 サービスの利用状況について

(1) 保険外の支援・サービスの利用状況

利用している『介護保険サービス以外』の支援・サービスは「配食」が12.2%

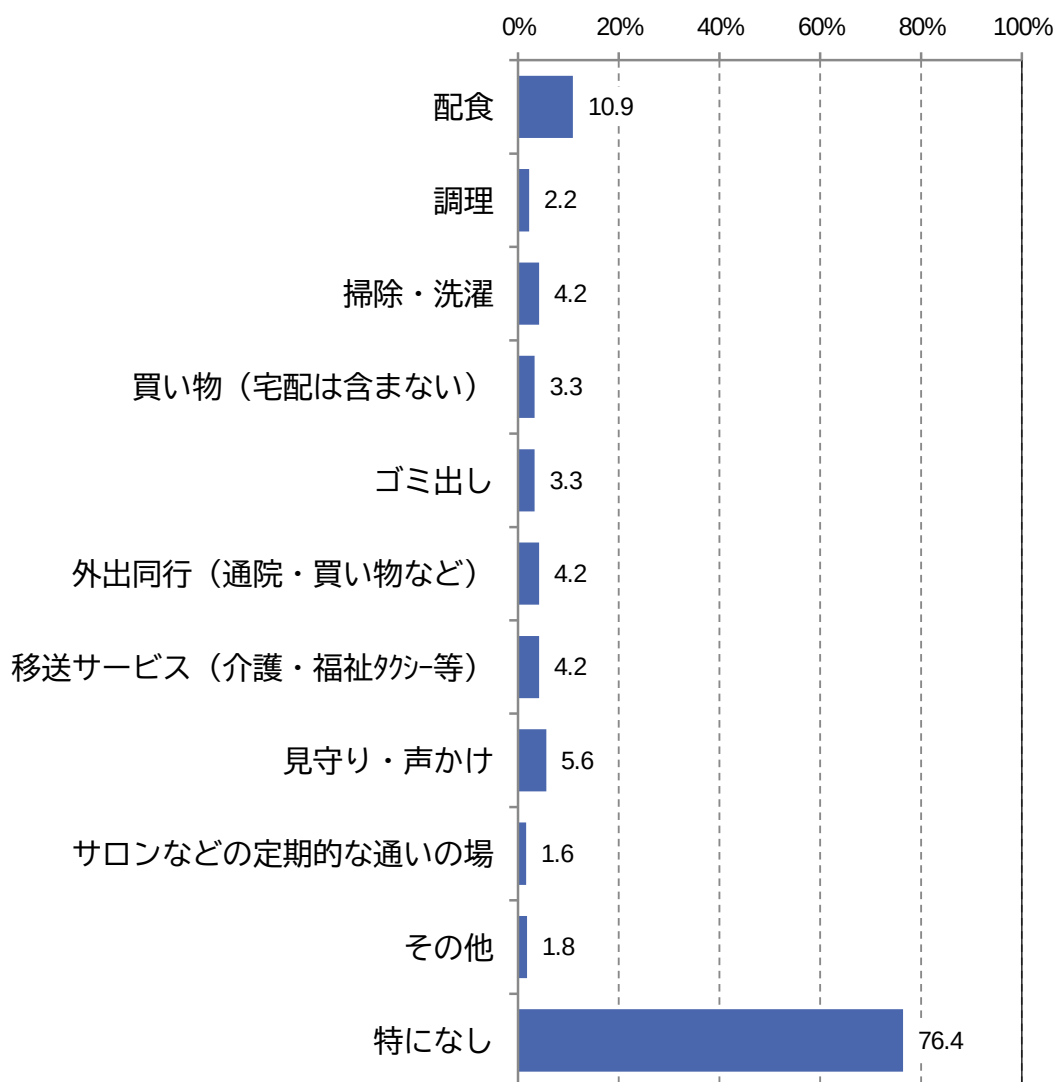
介護保険サービス以外で利用している支援・サービスの割合は、「配食」が最も高く12.2%で、そのほかの項目は2%前後となっています。一方「利用していない」は80.2%となっています。



（２）在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス

今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスは「配食」が10.9%

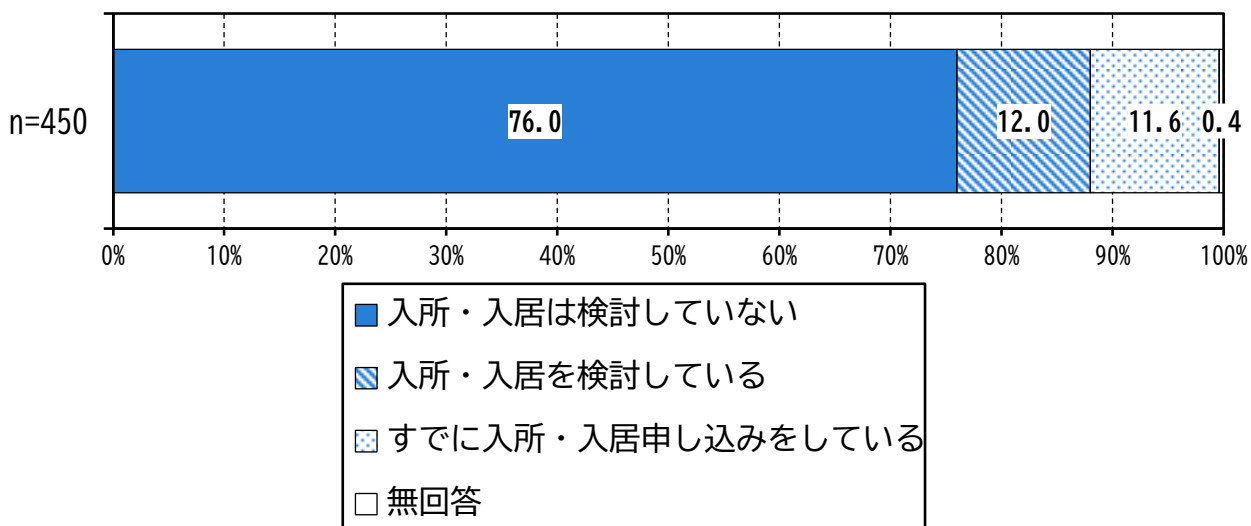
今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスの割合は「配食」が最も高く10.9%、次いで「見守り・声がけ」が5.6%と続いています。一方「特になし」は76.4%となっています。



(3) 施設等検討の状況

施設等への入所・入居の「検討をしている」と「すでに申し込み」が合計 23.6%

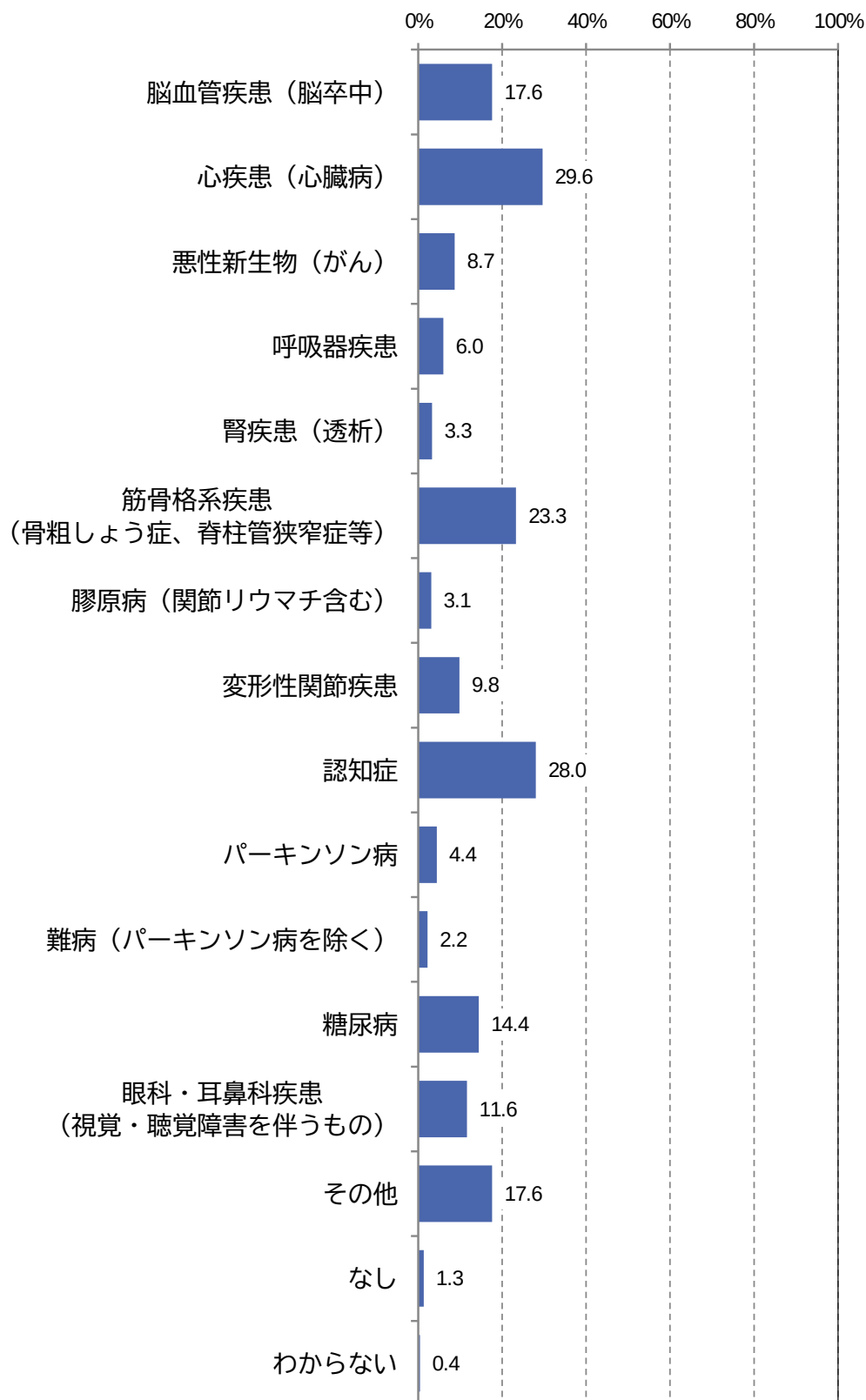
施設等への入所・入居について「入所・入居を検討している」が 12.0%、「すでに入所・入居申し込みをしている」が 11.6%で合わせると 23.6%が“入居・入所の意向がある”状態です。一方で、「入所・入居は検討していない」は 76.0%となっています



(4) 本人が抱えている傷病

現在抱えている傷病は、「心疾患」「認知症」「筋骨格系疾患」が20%を超える

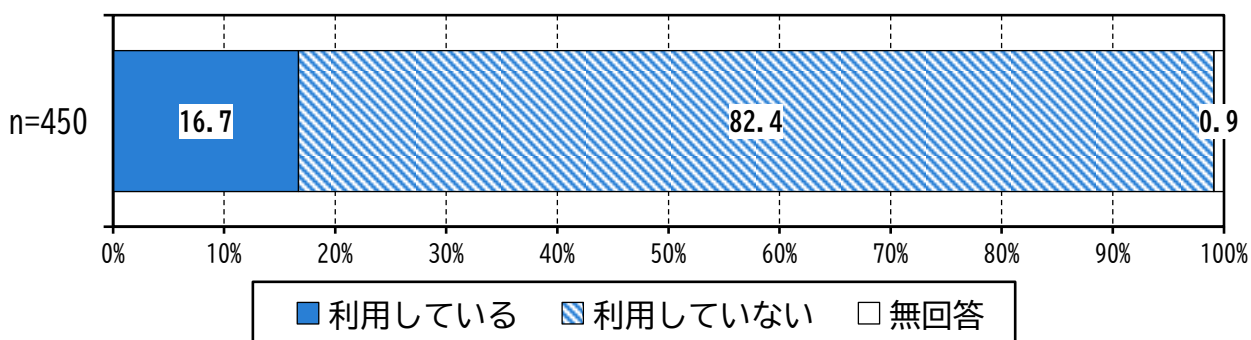
「心疾患（心臓病）」の割合が29.6%と最も高く、次いで、「認知症」が28.0%、「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）」が23.3%と続いています。



(5) 訪問診療の利用の有無

訪問診療を「利用している」は16.7%

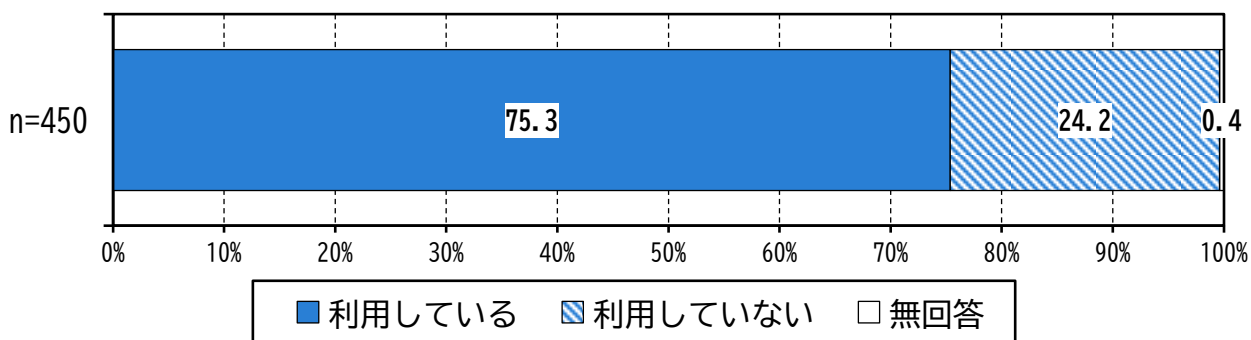
訪問診療の利用状況の割合は「利用している」は16.7%であり、「利用していない」が82.4%となっています。



(6) 介護保険サービスの利用の有無

介護保険サービス（住宅改修、福祉用具貸与・購入を除く）の「利用」は75.3%

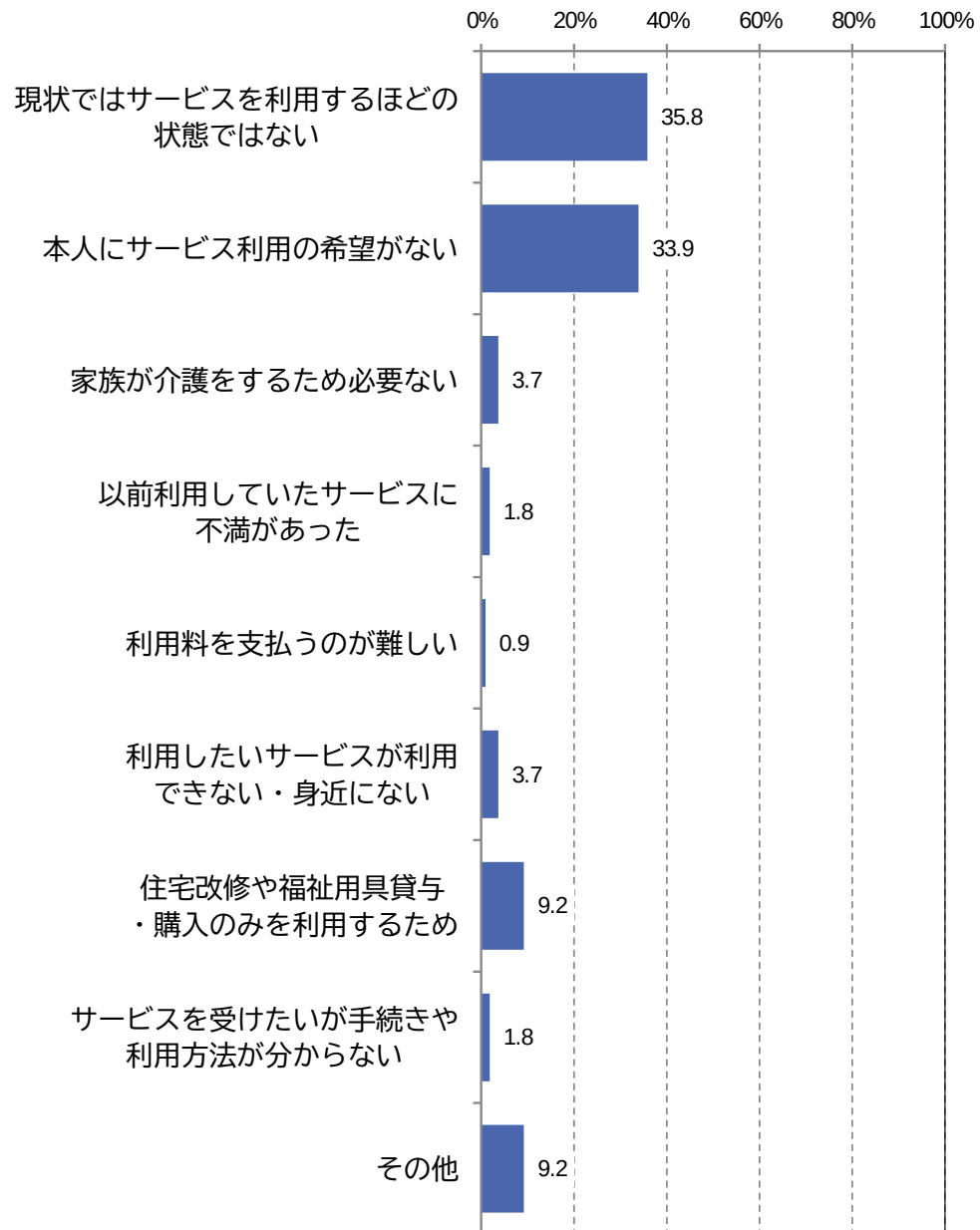
介護保険サービスの利用状況の割合は、「利用している」が75.3%と最も高く、「利用していない」が24.2%となっています。



(7) 介護保険サービス未利用の理由

介護保険サービスを利用していない理由は、「それほどの状態ではない」と「本人に利用希望がない」が高い

「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」の割合が 35.8%と最も高く、次いで、「本人にサービス利用の希望がない」が 33.9%と続いています。

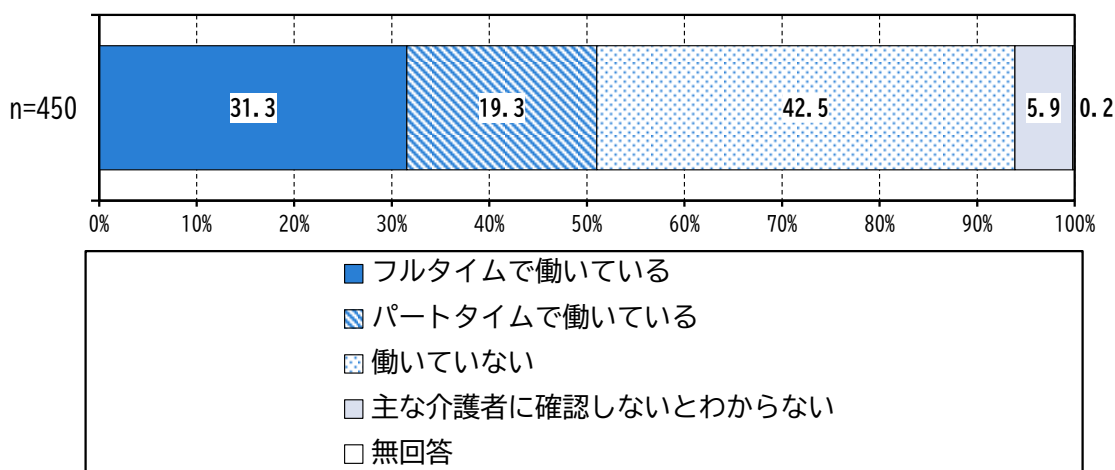


5 主な介護者の勤務状況について

(1) 主な介護者の勤務形態

主な介護者の勤務形態は「働いていない」が42.5%

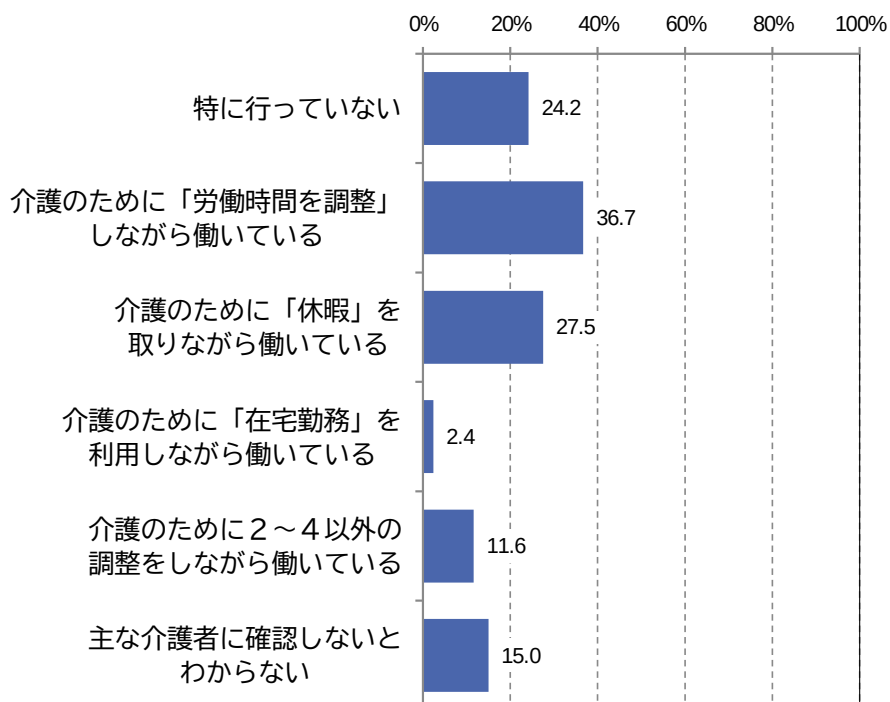
「働いていない」の割合が42.5%と最も高く、次いで、「フルタイム勤務」が31.3%、「パートタイム勤務」が19.3%となっています



(2) 主な介護者の方の働き方の調整の状況

働き方の調整は、「労働時間の調整」や「休暇取得」を“調整”が高い

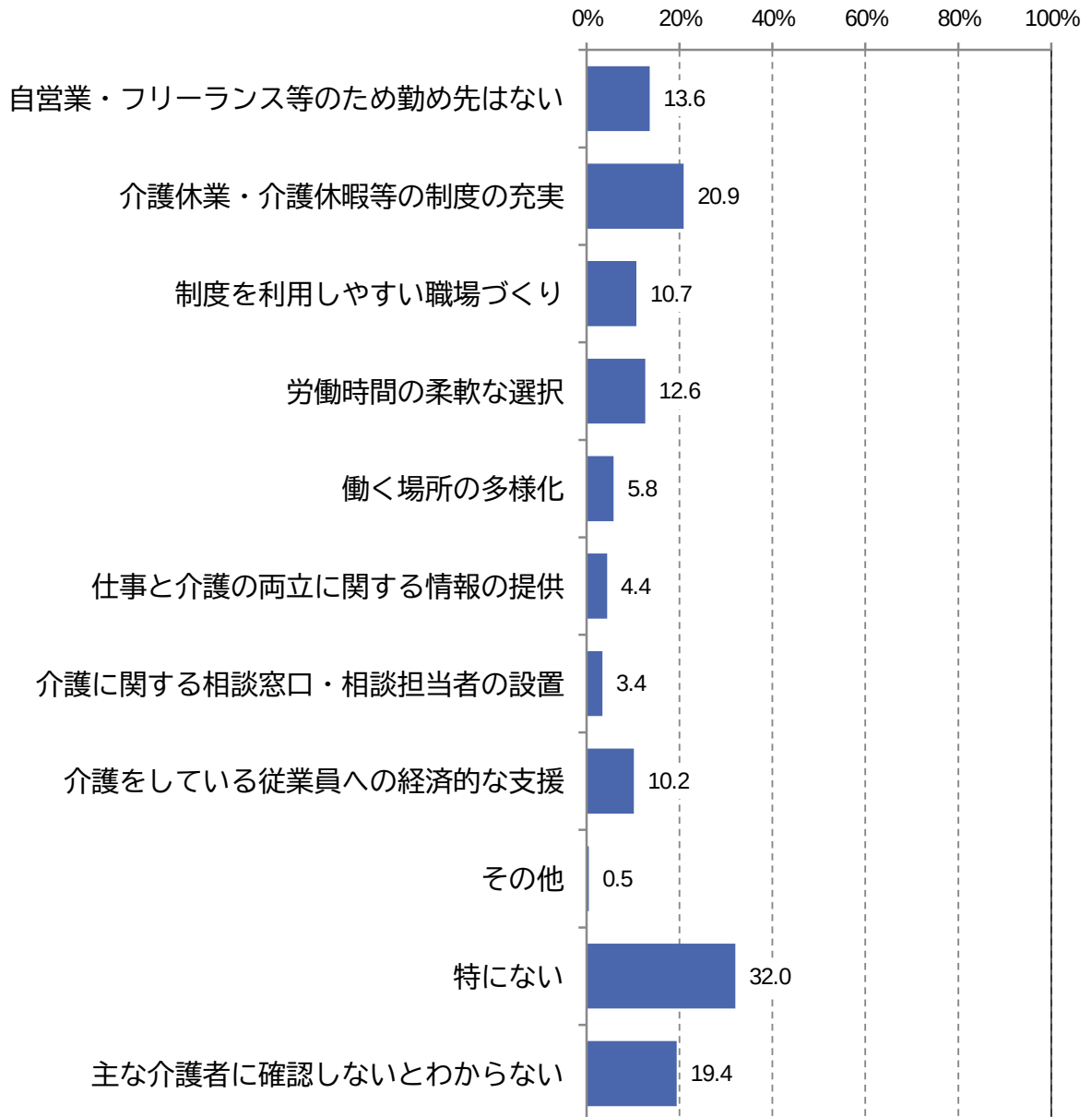
「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」の割合が36.7%と最も高く、次いで、「介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている」が27.5%となっています。一方、「特に行っていない」は24.2%となっています。



（３）就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援

仕事と介護の両立に効果がある支援は、「介護休業等の制度の充実」が最も高い

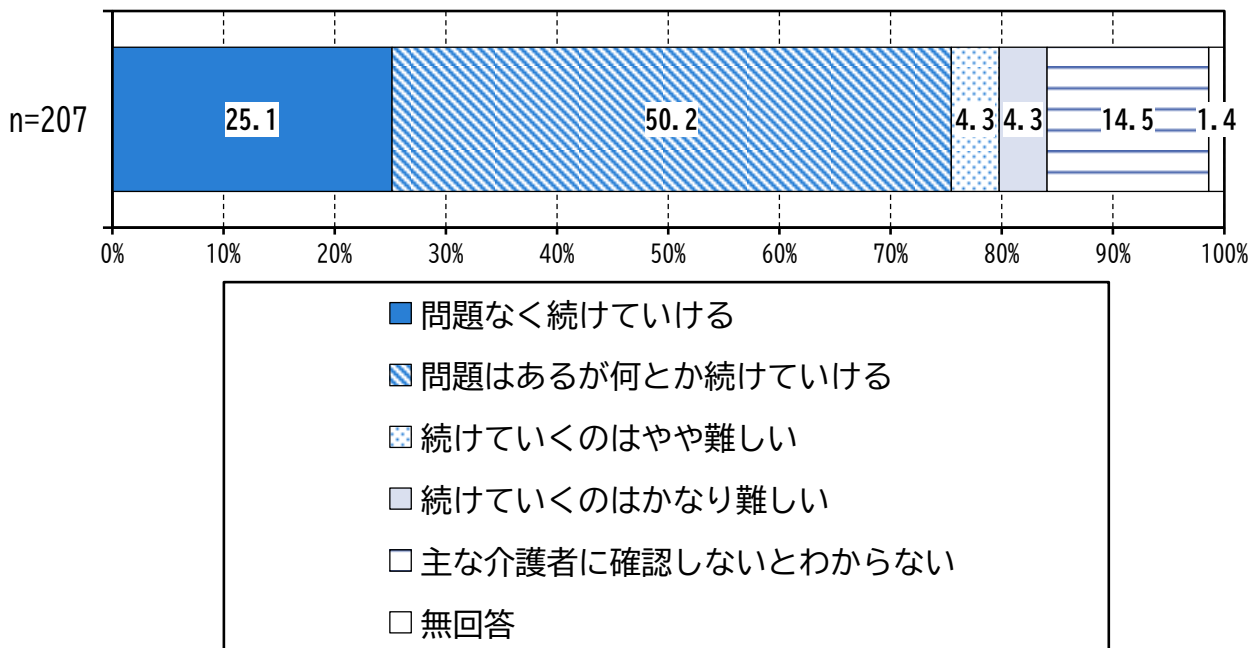
就労継続に効果的な支援として、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が 20.9%となっています。一方で「特にない」は 32.2%となっています。



(4) 主な介護者の就労継続の可否に係る意識

「働きながら介護を続けていける」が 75.3%、「難しい」は 8.6%

仕事と介護の両立について、「問題はあるが、何とか続けていける」の割合が 50.2%と最も高く、「問題なく、続けていける」が 25.1%と続いています。一方で、「続けていくのはやや難しい」が 4.3%、「続けていくのはかなり難しい」が 4.3%であり、合わせると 8.6%が“難しい”と感じています。

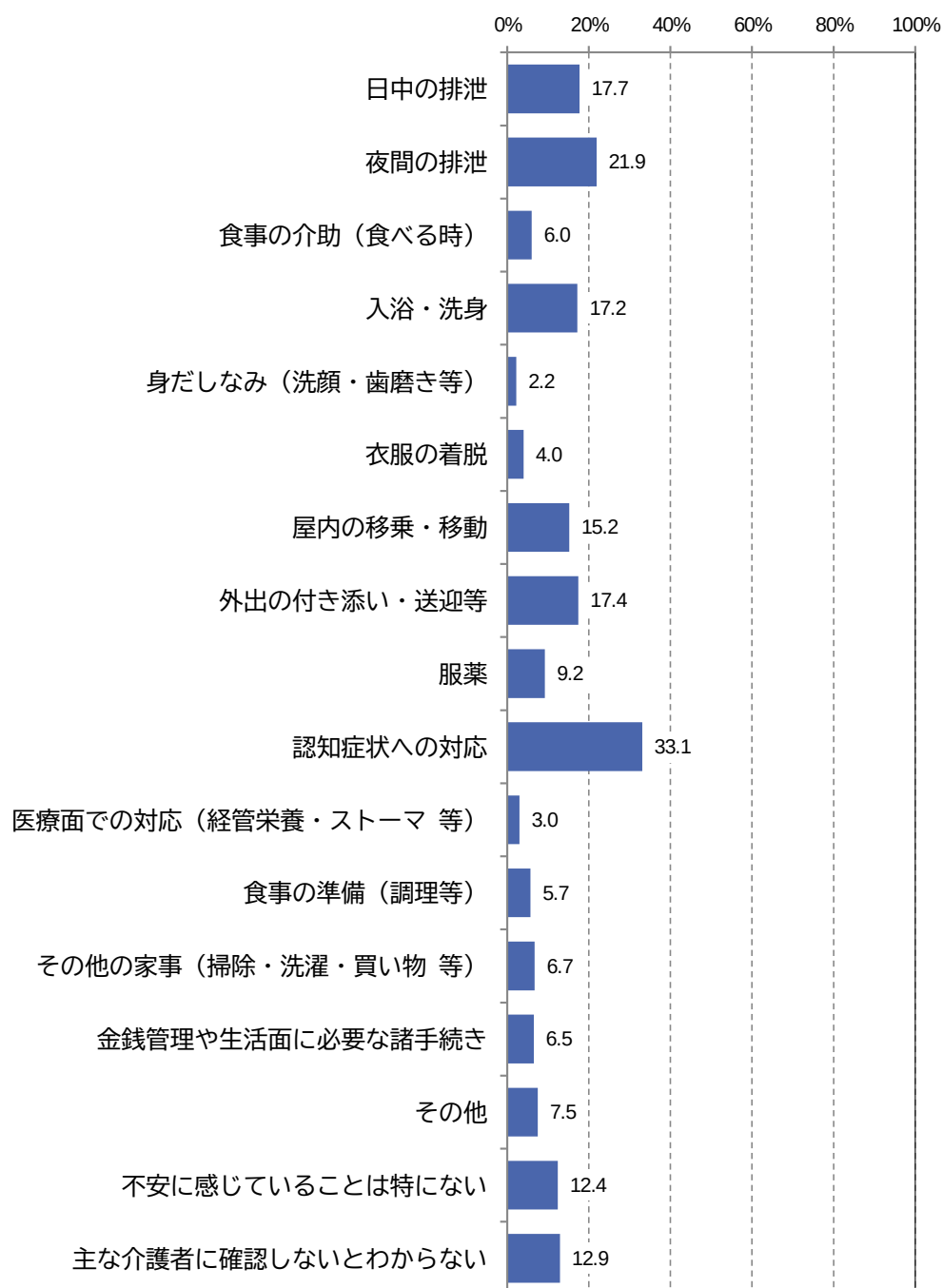


6 主な介護者が感じる介護の不安

(1) 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護

主な介護者の方が不安に感じる介護は、「認知症状への対応」が最も高く、「排泄」「外出の付き添い」「移動」「入浴」が続く

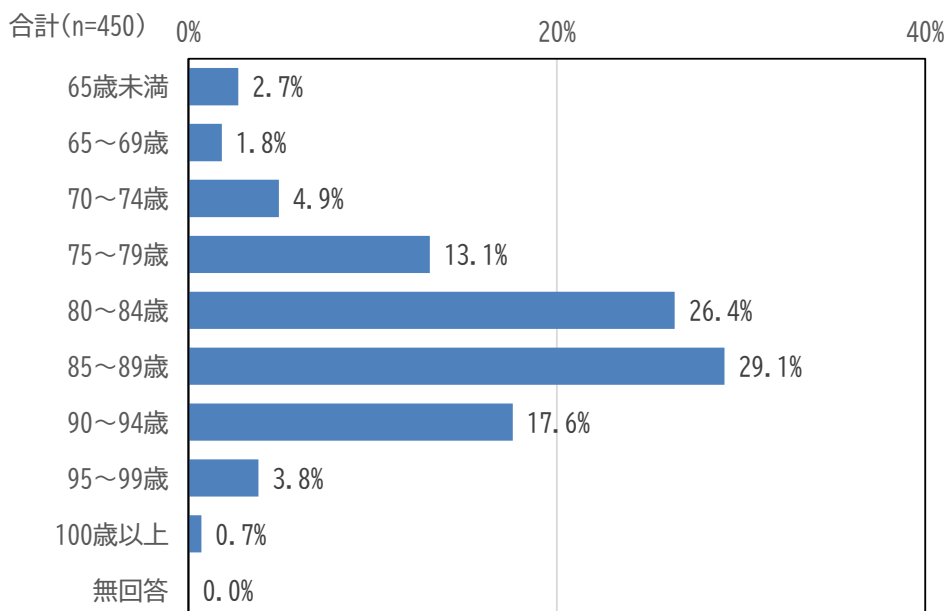
不安に感じる介護は、「認知症状への対応」が 33.1%と最も高く、次いで「夜間の排泄」が 21.9%、「日中の排泄」が 17.7%、「外出の付き添い・送迎等」が 17.4%、「入浴・洗身」が 17.2%と続いています。



Ⅲ 要介護認定状況

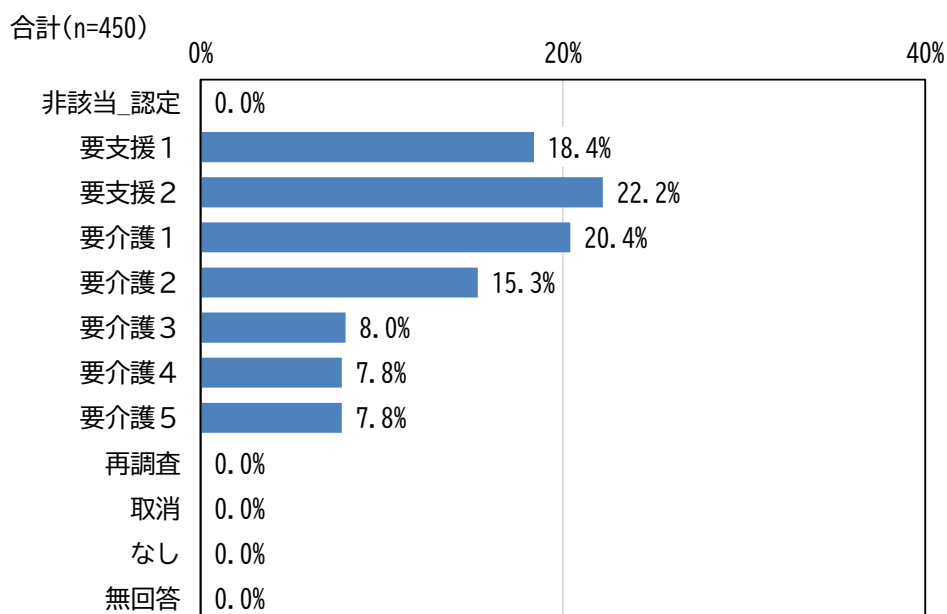
(1) 年齢

「85～89 歳」が 29.1%と最も高く、次いで、「80～84 歳」が 26.4%、「90～94 歳」が 17.6%となっています。



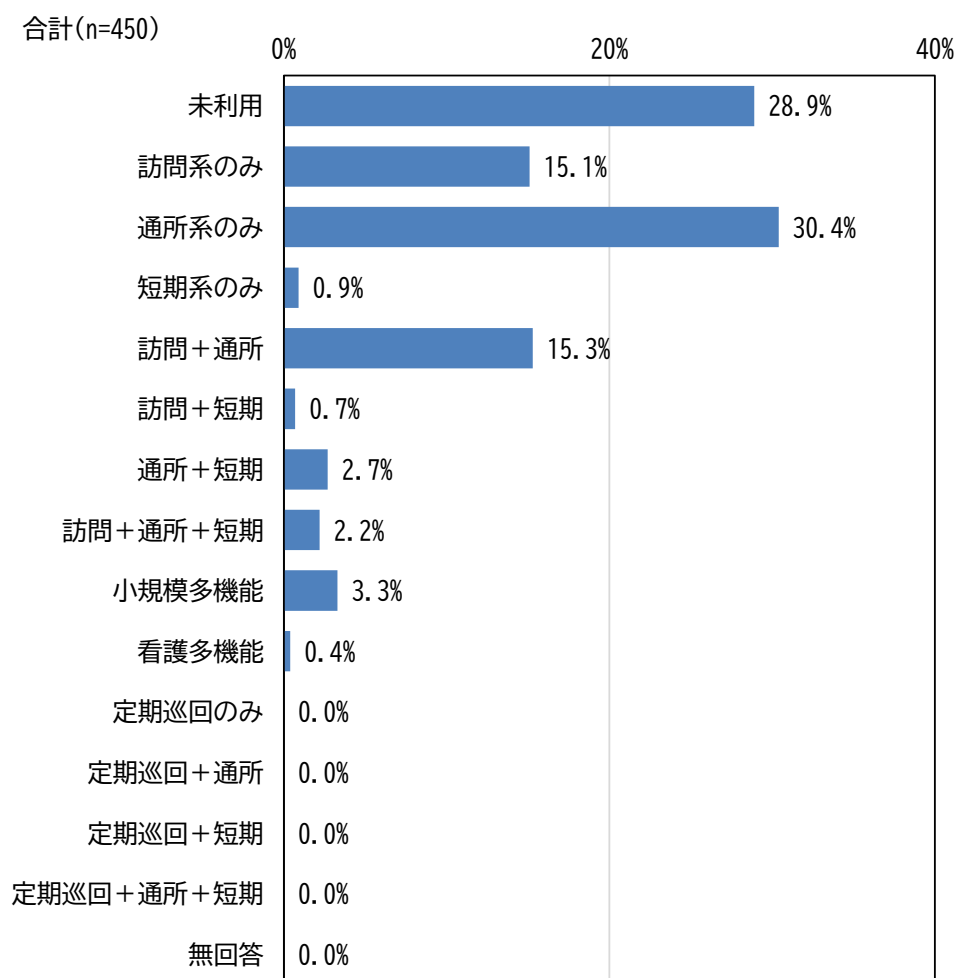
(2) 二次判定結果（要介護度）

「要支援2」が 22.2%と最も高く、次いで「要介護1」が 20.4%、「要支援1」が 18.4%となっています。



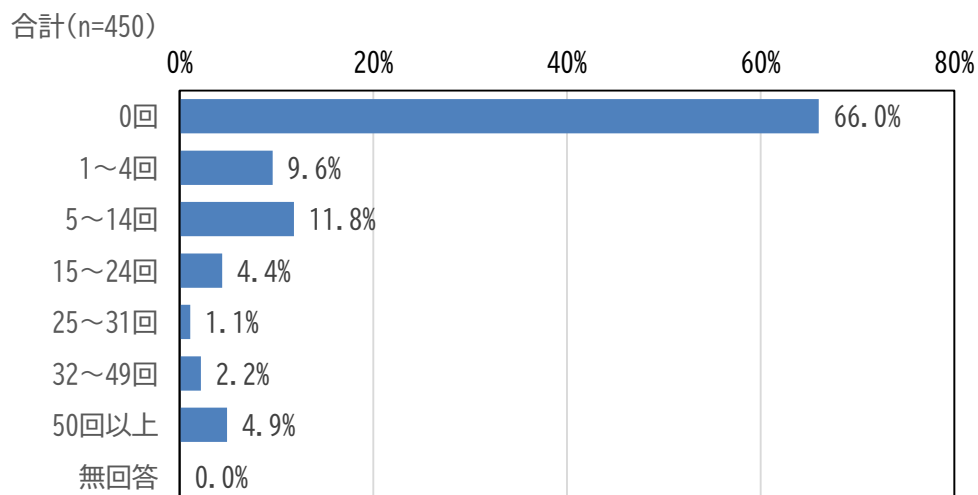
(3) サービス利用の組み合わせ

「通所系のみ」が 30.4%で最も高く、次いで「訪問+通所」が 15.3%と続いています。一方で「未利用」が 28.9%となっています。



(4) 訪問系サービスの合計利用回数

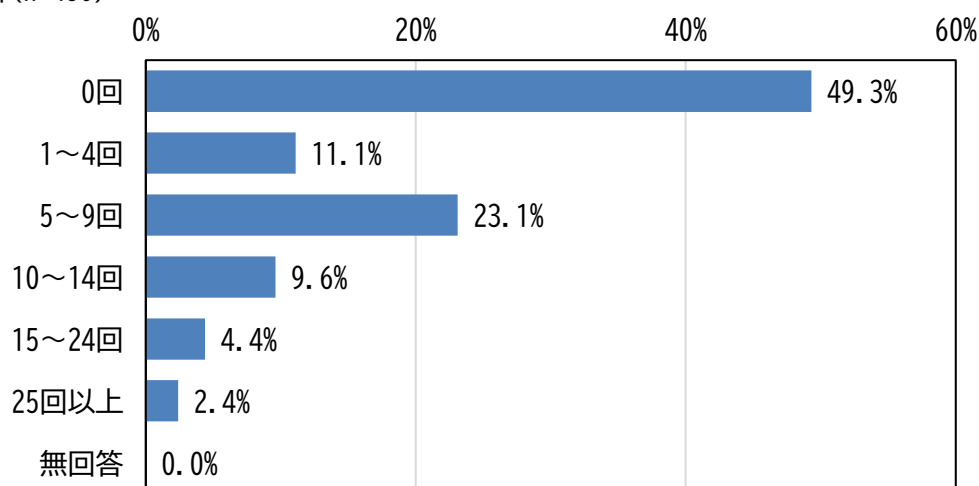
訪問系サービスの利用状況は、「5～14回」が 11.8%、「1～4回」が 9.6%となっています。



(5) 通所系サービスの合計利用回数

通所系サービスの利用状況は、「5～9回」が23.1%、「1～4回」が11.1%となっています。

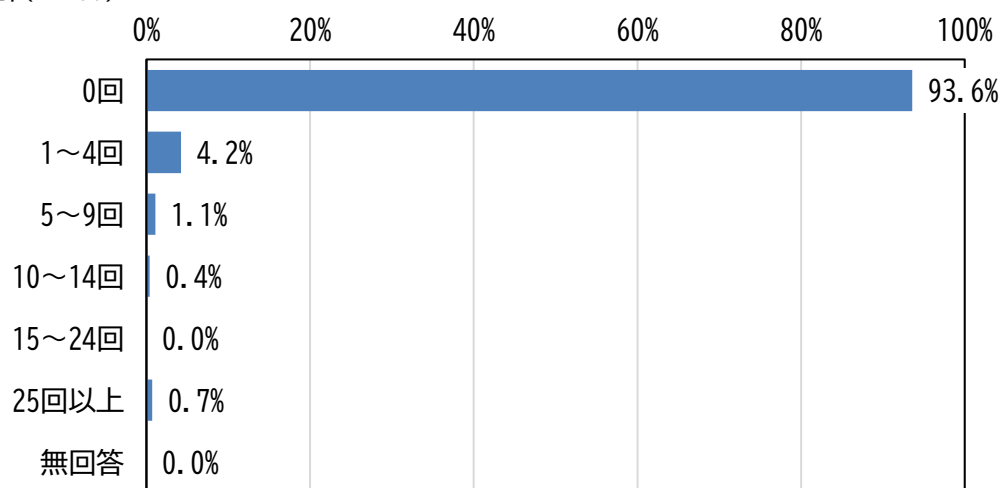
合計(n=450)



(6) 短期系サービスの合計利用回数

短期系サービスの利用状況は、「1～4回」が4.2%、「5～9回」が1.1%となっています。

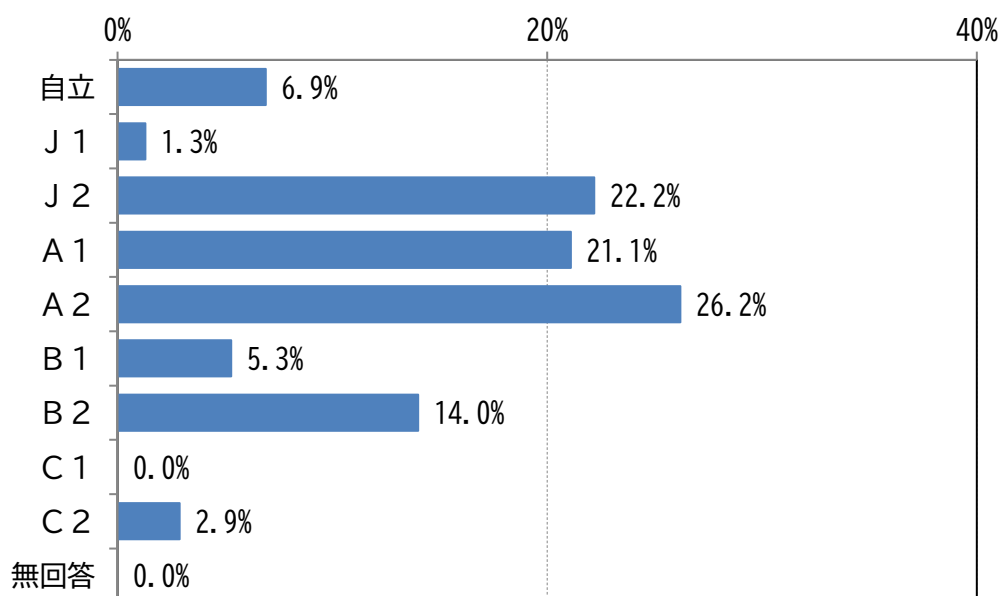
合計(n=450)



(7) 障害高齢者の日常生活自立度

障害高齢者の日常生活自立度は、「A 2」が 26.2%と最も高く、「J 2」が 22.2%、「A 1」が 21.1%となっています。

合計(n=450)



(8) 認知症高齢者の日常生活自立度

認知症高齢者の日常生活自立度は、「自立」が 30.9%と最も高く、「Ⅱ a」25.6%、「Ⅰ」22.0%となっています。

合計(n=450)

